

第2回「地域社会を運営するための人材確保と人づくりのあり方に関する研究会」

コミュニティの担い手

—都市部を中心として—

東京都市大学
室田昌子

1. コミュニティの担い手と世代間の違い
2. コミュニティリーダーの問題
3. コミュニティづくりの場
 - ①プロジェクト提案・実践の機会
 - ②ネットワーク・プラットフォームづくり

1. コミュニティの担い手と世代間の違い

1. コミュニティへのニーズ

子育て世代(30・40代)、高齢世代(定年退職後)
専業主婦などにおける特定活動ニーズ

2. 子育て世代のニーズ

- 子供を中心としたネットワーク
- 乳児(子供を遊ばせる、悩み相談、親の息抜き)
- 幼児～小学生(子供の遊び、地域体験など)
- 基本的に個人主義であり、共働きも多く忙しい
- 緩い関係づくり、負担感のない関係づくりを望む

3. 高齢世代のニーズ

- 健康づくりや生きがいづくり
- 不動産価値に関心があり、地域価値向上のための活動意欲が高い
- 70代前半までが活動マックス
- 70代後半は徐々に低下するが多いが健康状態が続けば継続

2. コミュニティ・リーダーの問題

1. 地域リーダーの不足（都市部）

- 成り手がいない（責任、時間・労力、資質、報酬）
- 失敗すると住みにくくなる（かもしれない）

2. リーダーのタイプと資質

- 伝統的タイプ
- 要求闘争型タイプ
- 協働マネジメント型タイプ
- ベンチャー型タイプ

3. プラスが理解されにくい

- 帰属意識、他者からの承認、自己実現などの場として機能していない、理解されていない

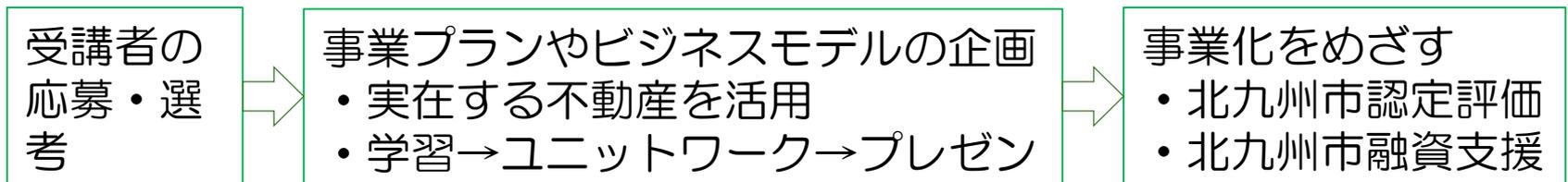
3. コミュニティづくりの場

1. プロジェクト提案・実践の機会

- 地域の課題解決や魅力づくりに寄与できるプロジェクト
- やりたい人が応募し、学び、提案されたプロジェクトの実現支援
- 事例：北九州市リノベーションスクール

泉北ニュータウン泉北をつむぐまちとわたしプロジェクト

北九州市リノベーションスクールのステップ



市の役割

- スクールの運営委託（北九州リノベーションまちづくり推進協議会→北九州家守舎）
- 市の政策への位置づけ
- 不動産オーナーへの協力依頼
- 金融機関への協力依頼
- 提案事業化の評価や支援

2. ネットワーク・プラットフォームづくり

<役割>

- 地域の課題や地域団体や活動など、情報や目標を共有できる場
- 多様な主体が相互に相談・協力できる関係
- 地域への情報発信・PR、協力依頼

<条件として>

- 自治会やNPO、地域の多様な団体の協力関係が必要
- 定期的（フォーマル）、非定期（インフォーマル）の場が必要
- プラットフォームの空間（コミュニティカフェ・レストランなど）も重要

<進める上で>

- 住民はこのような場の重要性を意識していないことが多い
- 地縁系とテーマ系は補完し合えるが、協力関係が難しい場合も多い
- 行政の支援などにより地域内の壁が越えられる